

平成 30 年 6 月 12 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16577

研究課題名(和文) 中東におけるソフト・パワーの構築とメディアの役割に関する実証的研究

研究課題名(英文) Soft Power Policy and the Role of the Media in the Contemporary Middle East

研究代表者

千葉 悠志 (CHIBA, YUSHI)

早稲田大学・イスラーム地域研究機構・研究助手

研究者番号：70748201

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現代中東におけるソフト・パワーの構築に向けた各国の動きを、メディア文化政策という観点から明らかにすることを目的とするものであった。本研究では、湾岸諸国を中心に、中東の複数か国でのフィールドワークをおこなうことで、各国が進めるメディアを通じたソフト・パワーに関する政策の実態を広く明らかにするとともに、そこに見られる差異についても指摘した。また、そうした政策が各国の国家アイデンティティや安全保障といった諸問題と密接な関係にあることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Since the 1990s, Middle Eastern countries have become aware of the necessity to promote soft power policies, and as a result, most have started to promote public relations through the media. This study revealed the recent soft power policies of Middle Eastern countries, with a particular focus on their public relations strategies through the media. The result demonstrated that the Gulf oil monarchies have played a leading role in this arena while other countries such as Egypt, which was once hegemonic in regional media, are far behind. This study clarified the situation and the reasons behind these differences. In addition, this study revealed how soft power policies, national identities, and state security affairs closely relate to one another. As this study demonstrated, analyzing the media transformation in Middle Eastern countries helps us to understand the entangled relations amongst them.

研究分野：国際コミュニケーション研究

キーワード：中東 メディア ソフト・パワー 文化外交 安全保障 国家アイデンティティ 国際メディア

### 1. 研究開始当初の背景

2000年代以降、国際政治やメディア研究の分野では、ソフト・パワーの問題が大きな関心をもって論じられるようになった。ソフト・パワーとは、経済力や軍事力といった強制力をともなうハード・パワーの対比概念である。説得や政治的価値観、文化的魅力などによって、相手国(の人々)の支持を獲得し、自国に望ましい結果を引き出す能力と定義される。中東各国も、従来のような要人同士の公式外交に加えて、人物交流や対外宣伝、国際放送を通じたパブリック・ディプロマシー(広報文化外交)を活発化させている。ソフト・パワーをめぐる動きが中東でも本格化している。

中東のソフト・パワーをめくっては、1940年代以降のアメリカの対中東政策を、ソフト・パワーの観点から論じた研究や、サウジアラビアとイランのソフト・パワー上の競争を論じた研究などが既におこなわれている。こうした先行研究は、ソフト・パワーの問題が、国家アイデンティティや、安全保障の問題と深く関係していることを指摘しており重要である。ただし、問題点としては、メディアの活用は現代のパブリック・ディプロマシーの要諦であるにも関わらず、中東におけるソフト・パワーの問題を、メディアの視点から論じた研究が僅少であること、また中東の事例を比較の視点を踏まえて広く論じた研究がほとんどおこなわれていないことが挙げられる。総じて、この分野の研究は、その重要性にも関わらず不足している。

したがって、中東におけるソフト・パワーの構築に向けた各国の取り組みを、メディア文化政策という観点から、また比較の視点を取り入れて、実証的に論じることが喫緊の課題となっている。そのためには、ソフト・パワーやメディア文化政策に関する先行研究の延長線上に、中東のソフト・パワーとメディア文化政策との関係性を考察することが必要である。同時に、特定の国の事例のみを分析するのではなく、複数国の事例の比較検討を通じて、より普遍性の高い議論としていく必要があるだろう。

### 2. 研究の目的

本研究は、現代中東におけるソフト・パワーの構築に向けた各国の動きを、メディア文化政策という観点から明らかにすることを目的とするものである。そのために、本研究では、とりわけ以下の2点を明らかにすることを試みた。第1に、湾岸諸国を中心に、中東の複数か国でのフィールドワークをおこなうことで、それぞれの国が進めるメディアを通じたソフト・パワーに関する政策の実態を広く明らかにすることである。第2に、そうした政策が、各国の国家アイデンティティや安全保障といった諸問題とどのように関係しているのかを解明することである。

### 3. 研究の方法

本研究では、メディア研究・国際関係論をもとにしたソフト・パワーをめぐる理論研究、中東複数か国でのフィールドワーク、フィールドワークで収集したアラビア語の諸資料をもとにした原典研究の3つを基軸とした、地域研究の手法に基づいて研究を進めた。研究代表者のこれまでの専門分野は、地域研究とメディア研究であったが、本研究では、さらに国際関係論の理論や近年の研究動向を踏まえながら研究を進めた。また、フィールドワークについては、湾岸諸国を中心に、中東の複数か国に滞在し、メディア関係者、政策関係者などへの聞き取り調査、関連資料の収集をおこなった。

### 4. 研究成果

本研究では、主にメディア研究と政治学の分野でなされたソフト・パワーをめぐる研究の理論や近年の動向を踏まえたうえで、中東諸国でおこなわれているメディアを通じたソフト・パワーの構築に向けた各国の動向を、メディア文化政策という観点から論じた。そのために、本研究ではエジプト、カタール、クウェート、バハレーン、UAE(ドバイ首長国、アブダビ首長国)の計5か国でフィールドワークをおこない、これらの国々でおこなわれているソフト・パワーの涵養を目的としたメディア文化政策の実態解明と比較検討をおこなった。本研究を通じて得られた主な研究成果は、以下の通りである。

#### (1) 中東のメディア文化政策の実態解明

1990年代以降、中東では衛星放送が急速に普及するようになった。それに伴い、各国政府は国際放送をおこなうことで、ソフト・パワーの構築に向けたメディア文化政策を加速化させている。本研究では、中東のいずれの国も、国際放送やインターネットを用いたメディア文化政策を進めており、なかでも潤沢な資金を有する湾岸産油国がトレンド・セッター的役割を果たしていることを明らかにした。また、こうした湾岸産油国のメディア政策には、いくつかの特徴が見られる。

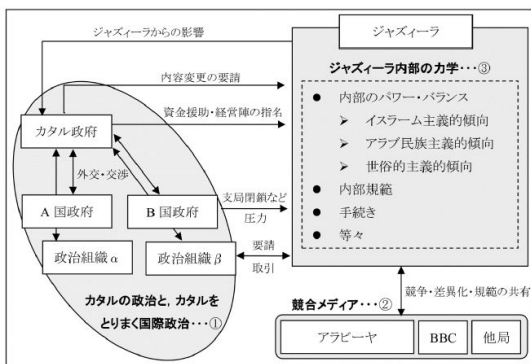
まず、最新の情報通信技術を用いていることで、湾岸以外の国々のメディアよりも優位性を持つ傾向が見られる。とりわけ、湾岸産油国とそれ以外の国々のメディアの製作者・提供者のあいだには、資金面だけでなく、技術面での決定的な格差が横たわっており、そうしたものは国内の情報通信インフラの状況とも大きく関係していることが明らかとなった。次に、メディア企業への投資を通じて、自国だけでなく他国のメディアにも影響を及ぼす傾向が見られる。そして、そうした傾向は近年益々強まっている。さらに、湾岸産油国からの資金提供を受けたメディアの多くは、必ずしも資金提供国の政府にとって好ましい報道をおこなうわけではないが、特定のアジェンダに対しては、歩調を合わせ

る傾向が見られる。とくに各国の安全保障に関わるとの認識が共有された問題については、そうした傾向が顕著に見られる。

これに対して、エジプトのような、長らく中東の文化的中心であっても、湾岸産油国と比べた場合に資金力を欠いている場合には、もっぱら国营放送や国营通信社といった国营メディアに依拠したメディア文化政策を執り行う傾向が見られる。しかし、そうした政策はしばしば矛盾を抱えたものであり、時代錯誤的なものになる傾向がある。こうしたことは、ソフト・パワーの構築を目的としたメディア文化政策において、民間メディアの重要性を改めて浮き彫りにするものであると考えられる。

### (2) メディア文化政策に関する分析枠組み

メディアを利用したメディア文化政策、さらにはソフト・パワー政策といったものを、単に一国の枠組みだけではなく、トランスリージョナルな観点から考察するために、下図のような分析枠組みを提起した(詳細については、〔雑誌論文〕を参照)。同分析枠組みは、メディア文化政策の核となるメディアを、国際政治・国内政治・経済諸力に位置付けて分析するものである。中東のメディア文化政策やソフト・パワー政策といったものを分析する上で有用であるのみならず、中東を越えて、他地域の事例にも援用することが可能であると考えられる。



### (3) メディア文化政策と政治社会との連環

中東におけるソフト・パワーの涵養を目的としたメディア文化政策は、とりわけ 2003 年以降の同地域に見られる政治的緊張の高まりとともに、より政治的な影響を受けやすくなっている可能性を指摘した。本研究では、その具体的な事例として、カタルのアル・ジャズイーラ放送の変容と、その変容の背景にあると考えられる中東地域の政治経済構造の変化とを関連付けて論じた。また、2017 年 5 月以来の「カタル危機」を取り上げて、同事件の背景には、カタル政府がこれまで進めてきたメディア文化政策のあり方が関わっている可能性を指摘し、それを「ソフト・パワーの反動」という観点から考察しうることを示した〔雑誌論文〕。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 6 件)

Chiba, Yushi, "The Tunisian Media Revisited: The Formation and Reformation of an Authoritarian System", *Mediterranean Review*, Institute for Mediterranean Studies (IMS), 8(1), pp. 93-116, July 2015. (査読あり)

千葉悠志「メディア 設立から 20 年、アルジャジーラとカタール」『アジアワールドトレンド』アジア経済研究所、256 号、pp. 48-49、2017 年 2 月。(査読なし)

千葉悠志「(研究ノート) アル=ジャズイーラ研究をめぐる方法論的考察 新たな分析枠組みの構築に向けて」『アジア・アフリカ地域研究』京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、16(2)、pp. 162-184、2017 年 3 月。(査読あり)

千葉悠志「『カタル危機』へと至る道 ソフト・パワー外交の展開とその反動」『中東研究』中東調査会、530、pp. 83-95、2017 年 9 月。(査読なし)

千葉悠志「偽ニュースきっかけにサウジなどと外交断絶 『カタル危機』に見る中東メディア事情」『メディア展望』672、p. 22-25、2017 年 12 月。(査読なし)

千葉悠志「アル・ジャズイーラとカタル 存立構造と変容をめぐる考察」『イスラーム地域研究ジャーナル』早稲田大学イスラーム地域研究機構、10、pp. 80-91、2018 年 3 月。(査読なし)

〔学会発表〕(計 8 件)

Chiba, Yushi, "Arab Media in the Age of Public Diplomacy: An Asian Perspective", International Workshop (under the auspices of Suntory Foundation) on *Media, Public Diplomacy, and the Middle East: Dialogue between the East and the West*, at Tokyo University, Tokyo, 21 June 2015.

Chiba, Yushi, "Location and Media Production in the Middle East: A Case Study of Media Cities", MEI Annual Conference on *Media in the Contemporary Middle East*, at Village Hotel Bugis, Singapore, 3-4 September 2015.

Chiba, Yushi, "Media, State and Politics in the Contemporary Middle East: The Case of Al-Jazeera", International Workshop on *New Waves of Political, Economic and Social Movements in Middle East and Asia*, at Durham University, Durham, 3 August 2016.

Chiba, Yushi, "From "Asset" to "Too-Heavy-Legacy"? Al-Jazeera and Its Transformation after 2011", Organization for Islamic Area Studies, Waseda University/Asia-Europe Institute, University of Malaya/New York University-Abu Dhabi International Seminar on *Islam and Multiculturalism: History, Challenges and Prospects*, at Waseda University, Tokyo, 3 December 2016.

Chiba, Yushi, "Broadcast Content about Japan on Arab TV: Mapping the Situation", International Workshop on *Global Flow of Cultural Knowledge and their Afterlives: Between Japan and the Middle East*, National Museum of Ethnology (Minpaku), Osaka, 17 December 2016.

Chiba, Yushi, "Al-Jazeera and Qatar: Media as the Reflection of Sociopolitical Situation", International Workshop on *The Emerging Gulf Region: Assessing the Field and Seeking New Possibilities*, Waseda University, Tokyo, 18 December 2016.

千葉悠志「アラブ諸国の視点からメディアの動向から考える」ジェトロ・アジア経済研究所／早稲田大学イスラーム地域研究機構主催・特別講演会「アメリカ大統領選挙後の湾岸情勢—イラン、アラブ諸国、サウジアラビアの視点も交えて—」ジェトロ、2016年12月20日。

千葉悠志「中東におけるポピュリズムとメディア」ORIS シンポジウム(第29回 ORIS セミナー)「ポピュリズムとメディア」早稲田大学、2017年10月21日。

〔図書〕(計 7 件)

中村覚(編)『サウジアラビアを知るための63章(第2版)』明石書店、2015年7月(担当部分:千葉悠志「情報社会に因應するソフト・パワー戦略 衛星テレビ、新聞、SNS、IT機器の普及」pp. 335-338)。NHK放送文化研究所(編)『データブック世界の放送2016』NHK出版、2016年2月(担当部分:千葉悠志「サウジアラビア」pp. 234-237、千葉悠志「ヨルダン」pp. 240-241、千葉悠志「エジプト」pp. 241-243)。

NHK放送文化研究所(編)『データブック世界の放送2017』NHK出版、2017年2月(担当部分:千葉悠志「サウジアラビア」pp. 234-237、千葉悠志「ヨルダン」pp. 240-241、千葉悠志「エジプト」pp. 241-243)。

世界の通信社研究会(編)『挑戦する世界の通信社 メディア新時代に』新聞通信調査会、2017年3月(担当部分:千葉悠志「アラブ世界の通信社」pp. 176-192)。

Nele Lenze, Charlotte Schriwer, and Zubaidah Abdul Jalil eds. *Media in the Middle East: Activism, Politics, and Culture*. Palgrave Macmillan: New York. December 2017 (担当部分:Chiba, Yushi, "Location, Regulation, and Media Production in the Arab World: A Case Study of Media Cities", pp. 71-88)。

NHK放送文化研究所(編)『データブック世界の放送2018』NHK出版、2018年2月(担当部分:千葉悠志「サウジアラビア」pp. 232-235、千葉悠志「ヨルダン」pp. 238-239、千葉悠志「エジプト」pp. 239-241)。

小寺敦之(編)『世界のメディア グローバル時代における多様性』春風社、2018年3月(担当部分:千葉悠志「カタル 小国の生存戦略とアル・ジャズィーラ」pp. 157-175)。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

明者:

利者:

類:

号:

願年月日:

内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

千葉 悠志 (CHIBA, YUSHI)

早稲田大学・イスラーム地域研究機構・研究助手

研究者番号: 70748201

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし

(4) 研究協力者 なし